

熊本城復元整備の概要

【熊本城の概要】

◇ 城 史

- ・1467年（応仁年間）出田秀信、茶臼山東端（現在の千葉城）に築城
- ・1496年（明応5年）鹿子木親員、茶臼山西南麓（現在の古城）に築城
- ・1588年（天正16年）加藤清正、隈本城（古城）に入城
- ・1601年（慶長6年）茶臼山に新城の築城着手
- ・1607年（慶長12年）新城完成、隈本城を熊本城に改称
- ・1632年（寛永9年）細川忠利、肥後54万石の領主となる
- ・1871年（明治4年）廃藩置県により肥後藩が熊本県となる
- ・1877年（明治10年）西南戦争、天守閣・本丸御殿等の主要建造物が焼失
- ・1960年（昭和35年）天守閣再建

◇ 城郭の規模

- ・周囲 約5.3 km、面積 約98 h a （加藤清正の築城当時の縄張り）
- ・都市公園法による総合面積 約56 h a
- ・文化財保護法による特別史跡 約51.2 h a

◇ 築城当時の建造物

- ・大小天守閣をはじめ、櫓49、櫓門18、城門29を数えた

【復元整備計画】

これまでの熊本城の整備にかかる答申や報告、提言や意見を踏まえ、平成９年度に「熊本城復元整備計画」を策定した。

1、整備方針

30年から50年をかけて、加藤清正が築城した城郭全体（約98ha）を対象に、往時の雄姿に復元するとともに、市民や観光客に愛され利用される整備を目指す。

○ 歴史的建造物の復元と保存

歴史的建造物を史実に忠実に復元するとともに、積極的な活用を図る。

○ 都市の潤い空間としての環境整備

原風景を守りながら、豊かな緑を育成する。

○ サービス空間の創出

サービス施設の充実とともに、歴史文化の体験学習の場として整備する。

2、整備方法

城郭を5ゾーンに区分し、そのゾーンに見合った整備を効率的に進めるとともに、整備時期についても短期、中期、長期に区分し整備を進める、

- | | | |
|----------|-----|-----------|
| ○ 本丸ゾーン | ・・・ | 保存・復元ゾーン |
| ○ 二の丸ゾーン | ・・・ | 緑の遊園ゾーン |
| ○ 三の丸ゾーン | ・・・ | 歴史学習体験ゾーン |
| ○ 古城ゾーン | ・・・ | エントランスゾーン |
| ○ 千葉城ゾーン | ・・・ | 文化交流ゾーン |

熊本城復元予想図

資料4-1

(史跡・建築部会)



◇短期(第Ⅰ期)計画に

◇第2期復元整備計画による

◇今後の復元予定建造物

- | | | | | |
|--------|-----------|--------------|-----------|---------|
| ① 南大手門 | ④ 元太鼓櫓 | ⑦ 馬具櫓および続塀 | ⑩ 竹の丸五階櫓 | ⑬ 櫓方三階櫓 |
| ② 戌亥櫓 | ⑤ 飯田丸五階櫓 | ⑧ 平左衛門丸の塀 | ⑪ 数寄屋丸五階櫓 | ⑭ 北大手門 |
| ③ 未申櫓 | ⑥ 本丸御殿大広間 | ⑨ 西櫓御門および百間櫓 | ⑫ 御裏五階櫓 | |

【短期（第Ⅰ期）復元整備計画】

平成10年度から復元整備事業に取り組み、平成19年度までに本丸御殿大広間をはじめ、7つの建造物の復元を終えた。なお、平成11年の台風18号で倒壊した西大手門も再建した。

区 域	復元建造物	事業期間	事業費
西出丸一帯	南大手門 末申櫓	戊亥櫓 元太鼓櫓	平成10年～15年度 約19億円
	西大手門		平成12年～15年度 約5億円
飯田丸一帯	飯田丸五階櫓	平成10年～16年度	約11億円
本丸一帯	本丸御殿大広間	平成11年～19年度	約54億円

☐ 復元募金

- ・期 間 平成10年4月～平成19年3月
- ・目標額 15億円
- ・募金額 約12億6百万円（城主約2万7千人）
（城主とは1万円以上の寄付者）

□ 市民債の発行

- ・【蘇る名城 くまもとと市民債】
購入額は5～100万円、5年満期
- ・H15・16・17・18年度：各年4.5億円
- ・H19年度：1億1千万円の発行

【第Ⅱ期復元整備計画】

平成20年度から平成29年度までの10年間を目処に、行幸坂から見た往時の熊本城の復元整備を図るため、「馬具櫓一帯」、「西櫓御門および百間櫓一帯」、「平左衛門丸の堀」の区域の整備を進める。（総事業費 約23億円 文化庁補助事業）

□ 復元募金 新「一口城主制度」

目標額：7億円 募金状況：460,239千円（城主38,459件） H23.7.31現在